

医師と医師会を結ぶ情報紙

令和4年4月15日／毎月1回15日発行

都医

NEWS

Vol.
674

東京都医師会 定例記者会見	01
底流／地区医師会長連絡協議会報告 ほか	02
"TMA近未来医療会議"の設立報告と 第1回公開シンポジウム開催のお知らせ	03
令和3年度 東京都医師会功労賞および 医学研究賞・グループ医学賞受賞者 ほか	04
みどりの広場 ほか	05
都医からのお知らせ ほか	06
地区医師会長からの一言	08

発行所 公益社団法人 東京都医師会 〒101-8328 千代田区神田駿河台2-5 TEL. 03-3294-8821(代)

定価 1部77円



水素で走る燃料電池都バスと国立競技場

撮影：大畑隆郎(板橋区医師会)

東京都医師会 定例記者会見

第6波に対する医療提供体制

東京都医師会では3月8日(火)に定例記者会見を開催し、新型コロナウイルス第6波の医療提供体制等について見解を示した。

ワクチン3回目接種の推進

尾崎治夫会長は「市内の高齢者へのワクチン3回目接種は、3月末には8割以上が完了すると思われる。3回目のワクチン接種は感染拡大を抑えていくのに有効な武器であり、個別・集団接種の体制も整っている。ぜひ早めの接種をお願いしたい」と呼びかけた。

また、コロナ禍でさまざまな情報が氾濫している状況を踏まえ、「東京都医師会では健康や医療に関する正しい情報を入手し、理解して活用する能力である『ヘルスリテラシー』の向上のための活動を行っている」と紹介し、正しい情報により健康を守ることが必要であると呼びかけた。

医療提供体制等の現状

猪口正孝副会長は「感染者数がピークアウトしているように見えるが、増加比や実効再生産数を見ると、ほとんど下がっていない状況だ。オミ



尾崎会長



猪口副会長

クロン株の亜種『B.A.2』の感染が拡大している可能性もあり、人流も多くなっている。また、10歳未満の感染者の割合が増加しており、小学校や幼稚園でも感染が拡大している」と現状について解説し、全世代が協力して感染拡大を防止していくことの重要性を訴えた。

ワクチンの接種状況

角田徹副会長は「現時点で都内全人口の78・2%が2回目のワクチン接種を完了しており、3回目のワクチン接種についても、65歳以上の64・2%が完了している。今後、ワクチン接種を加速させるためには、行政と医療機関等との協力が不可欠」と述べた。

高齢者施設の現状

平川博之副会長は「高齢者施設では現在も感染拡大が続



角田副会長



平川副会長

いており、緊張感を持った対応が求められている。施設内で対応できている背景には、3回目のワクチン接種、地区医師会と医療機関のサポートが機能し始めたこと、治療薬の登場、抗原検査・PCR検査体制の整備、スタッフの感染対応能力の向上等が挙げられる。しかし、高齢者施設は医療機関ではないため、医療設備や専門職の人員配置等の面で更なる地域の医療サービスからの支援や協力が必要だ」と説明した。

地域医療の果たす役割

西田伸一理事は「感染拡大時に最も多くの方々が療養する場合は自宅であり、自宅療養者を支援するためには地域医療の体制強化が必須である。今後の感染拡大に備えて第6波の課題を分析し、診療・検査医療機関の拡充や往診機能の充実を図る必要がある。ま



西田理事

子どもの新型コロナウイルス

た、感染拡大がみられる高齢者・障害者施設の臨時医療提供体制を確保し、保健所と密に情報交換を行うことも重要だ。行政と協議しながら、更なる体制整備に努めていきたい」と語った。

川上一恵理事は「ワクチン接種には、本人を守るための接種と、社会集団として全体を守るための接種という2つの視点がある。この観点から考えると、5歳から11歳の子どものワクチン接種は、免疫の土台を作ることができ、将来に向けて新型コロナウイルス感染症の重症化を防ぐことができる。また、集団免疫を早期に作ることができれば流行を抑制でき、安心して学校を開くことが期待できる。そして、同居する高齢者などの家族を守ることもつながる。東京都医師会では、基礎疾患がある子どもへの接種は積極的に推奨し、接種を希望する健康児についても推奨するが、接種を迷う場合は、かかりつけ医に相談してもらいたい」と述べた。



川上理事

底流

セルフメディケーションとヘルスリテラシー

セルフメディケーションの推進は医療費の適正化につながるが、そこにはヘルスリテラシーの醸成が不可欠である。

「セルフメディケーション」とは、世界保健機関（WHO）による「自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てすること」と定義されている。持続可能な未来の医療提供体制を考えるうえで、医療費の適正化は重要な課題であり、その一翼を担うのがセルフメディケーションの概念である。セルフメディケーションの基礎となるセルフケアの7つの柱として、①食事②運動・睡眠③衛生管理・口腔ケア④禁煙⑤OTC医薬品⑥セルフチェック⑦ヘルスリテラシー、が挙げられている。そのなかで、OTC医薬品に注目してみる。

OTC（Over The Counter）医薬品とは、「薬局でカウンター越しに販売される医薬品」である。処方箋なしで購入できる医薬品であり、感冒薬、胃腸薬、解熱鎮痛薬、ビタミン製剤、外用消炎鎮痛薬などが挙げられる。超高齢社会を迎えるにあたり、限られた医療費をいかに有効に使うかが議論されている。経済的に負担能力がある場合は、OTC薬の利用を促すことにより医療費の適正化を図ることができる。

OTC薬の問題点としては、医師の診断なしに処方決定される点が挙げられる。そこには適正な薬剤が適正な量で販売されるかの問題が残る。OTC薬を販売する薬剤師の質の保証、利用する側のヘルスリテラシーの醸成が鍵になるといえる。

適正なOTC医薬品の利用が促進されれば、医療費の適正化や削減に結びつくことが予想される。超高齢社会において、国民皆保険制度を持続可能にするためには必要な方策と考えられる。しかし、これらのセルフメディケーションを推進するにあたっては、医療へのアクセスの整備とヘルスリテラシーの醸成が不可欠である。

地区医師会長連絡協議会報告

令和4年3月18日（金）

◎都医からの伝達事項

（1）ロシアによるウクライナへの軍事侵攻に対する緊急声明について
日本医師会より、ロシアに

よるウクライナへの軍事侵攻に対して、都道府県医師会の連名をもって緊急声明を発出したとの通知があり、本会も賛同した。

（2）新型コロナウイルス感染症について
都内区市町村における小児（5～11歳）の接種体制や12～17歳の追加接種の接種体制、濃厚接触者の特定等について情報提供を行った。

（3）令和4年4月以降の診療・検査医療機関による健康観察等支援事業について
標記事業は、当面の間、継続することになったので、引き続き協力をお願いする。また、夜間や休日に保健所に連絡がとれる体制を確保するため、「医療機関案内サービスひまわり」に加え、「自宅療養フォローアップセンター健康観察協力医療機関専門ホッ

トライン」を新たに設置し、自宅療養者フォローアップセンターを紹介して、保健所へ連絡することが可能になった。

（4）令和4年4月以降における自宅療養者等への医療支援事業について
標記について、①地域における自宅療養者等に対する医療支援強化事業（オンライン診療システムによる遠隔診療および高齢者施設等に対する医療支援を含む）、②自宅療養者への往診体制の強化事業、③夜間休日における往診体制等を実施している事業者への委託により実施する事業（平日夜間および休日における医療支援）は、当面の間、現体制を継続する。引き続き協力をお願いする。

（5）TMA近未来医療会議「社会保障費・医療費に関わる意識調査」協力依頼および「第1回公開シンポジウム」の開催について
東京都医師会では、次世代の医療提供体制の抜本的改革と社会保障について検討するために「TMA近未来医療会議」を設置している。会員を対象とした社会保障費・医療費に関わる意識調査のアンケートを実施するので、協力をお願いする。

また、4月15日（金）の地区医師会長連絡協議会終了後、午後3時半より公開シンポジウムを開催し、本会議が第1クールで取りまとめた提言を発表する。

（6）児童生徒等の健康診断時の脱衣を伴う検査における留意点について
標記については、令和3年3月に文部科学省から発出され、地区医師会に通知してい

◎地区医師会からの報告

- （1）中央ブロック
 - （2）城東ブロック
 - （3）城西ブロック
 - （4）城南ブロック
 - （5）城北ブロック
 - （6）多摩ブロック
 - （7）大学ブロック
- ①大学医師会連絡協議会冊子の発行について
（日本大学医師会）

◎出席者による意見交換

◎その他



受賞者との懇談会の様子

2月22日（火）に東京都医師会館にて、東京都医師会「医学生懸賞論文 Student Doctor プラタナス大賞」の授与式が行われた。本懸賞論文は、医学生が考える「医師像、医療のあり方」を創出し、将来医師となる医学生を支援するとともに、医学生と医師会が意識を共有し、新たな医師会活動につなげることを目的として、令和3年度より創設されたものである。懸賞論文の名称は、応募資格を都内13大学の医学部に在籍する Student Doctor として認定を受けた医学生としたこと、および「学問の木」といわれるプラタナスから命名された。

授与式の前には、3名の受賞者と論文の選考に携わった尾崎治夫会長、平川博之副会長、落合和彦理事、目々澤理事との懇談会が行われ、受賞論文への講評や学生たちが医師会に期待していることなどについて、意見交換が行われた。

授与式では落合理事の司会のもと、尾崎会長より表彰状が授与され、各受賞者が謝辞と将来への抱負を語った。

【大賞（2名）】（※順不同）
横山果南さん（東京大学）
「医療×〇〇」でより良い世界へ」
栗林史也さん（杏林大学）
「医療におけるDXーデジタルネイティブの視点から」

【優秀賞（1名）】
吉森彩さん（東京医科大学）
「地域医療と地域活性化のためのまちづくり構想」

※受賞論文の全文は、東京都医師会雑誌4・5月合併号（5月15日発行）に掲載されます。

令和3年度 東京都医師会「医学生懸賞論文 Student Doctor プラタナス大賞」



左から、目々澤理事、落合理事、吉森さん、尾崎会長、栗林さん、横山さん、平川副会長

格を都内13大学の医学部に在籍する Student Doctor として認定を受けた医学生としたこと、および「学問の木」といわれるプラタナスから命名された。

授与式の前には、3名の受賞者と論文の選考に携わった尾崎治夫会長、平川博之副会長、落合和彦理事、目々澤理事との懇談会が行われ、受賞論文への講評や学生たちが医師会に期待していることなどについて、意見交換が行われた。

首都東京から医療と社会保障の方向性を提言 する「TMA近未来医療会議」の設立報告と 第1回公開シンポジウム開催のお知らせ

少子高齢社会といわゆる「支え手」の減少問題が最も切実となる2040年に向けた社会保障改革に関して、厚生労働省をはじめ内閣府や財務省などの国の機関を中心に、さまざまな議論が行われている。更に、足元の深刻なコロナ禍の経験から、医療提供体制を再検討・再構築することが喫緊の課題であることが広く認識されてきている。

しかしながら、激しい新型コロナウイルスの感染拡大により医療機関の逼迫・疲弊が顕在化した東京都では、地方とは全く異なる医療環境と生活基盤に依っているため、医療や社会保障の方向性を全国一律に論じることが困難といえる。

総論

現在、我が国の医療がもたらす社会や経済への価値が正に評価されている状況とはいえない。健全な医療システムがもたらす価値は単に患者個人の健康に対するベネフィットに留まらず、社会経済活動への実質的貢献、社会保障制度の格差是正効果、地域住民に対する安心感の供与など多岐に渡る。

国として医療システムにどの程度の資源配分を行うべきかについては、単に「診療にどれだけの費用が必要とされるか」といった視点のみならず、医療のもたらす本當の価値を綿密に評価・検討したうえで議論されるべきと考えられる。

①これまで進捗の捗々しくなかった医療界のデジタル化対応を早急に行うなど、患者目線で共感を得られる医療提供体制の効率化を推進する

②医療のもたらす価値を広く国民にご理解いただくために最大限努力する

③医療従事者が自ら必要な適正化努力を怠らない

④必要となる財源確保の方策については、現在の医療費負担の

そこで東京都医師会では、ウィズ/ポストコロナ時代における医療提供体制の抜本的な改革と社会保障の理想像について幅広く検討することを目的に、新たに「TMA近未来医療会議」を設立した。

本会議では多くの学識経験者・有識者を交えて、東京都における各医療分野の代表や地域医療を担う医師が社会保障の諸問題を多角的に討議し、そこから導き出された社会保障制度の改革案を国や東京都へ提言することを目指す

第4クール：全世代型社会保障と後期高齢者医療制度の問題点に対する解決策を示し、我が国が誇る「国民皆保険制度」のあるべき未来像を提案

なお、第1クールで討議した内容については、4月15日の公開シンポジウムや刊行物を介して国民や都民に向けて丁寧な情報発信していくことを基本方針とした。

現在、会議の第1クールとして、厳しい国家財政状況下における医療経済と国民医療費について財政審の建議や経済財政諮問会議の骨太の方針等で過去に示されたデータ・資料等を素材に議論し、社会保障に係る財政的諸問題について取りまとめている。

更に、来春までを目途に第2クールから第4クールまで検討会議が計画されており、各クールの主要課題は次の通りである。

第2クール：次世代の地域医療提供体制について、地域医療構想・地域包括ケアの最適化と医療・介護連携のあり方を検討

第3クール：新型コロナウイルス感染症に対して行われた医療政策の評価を行ったうえで、有事と平時における医療提供体制の再構築について考察

第4クール：全世代型社会保障と後期高齢者医療制度の問題点に対する解決策を示し、我が国が誇る「国民皆保険制度」のあるべき未来像を提案

なお、第1クールで討議した内容については、4月15日の会保障規模は今なお相対的に見て決して大きく過ぎない状況であると認識している。

給付率に対して国民負担率が上がっていないという事実が、給付に見合った負担をせず、むしろ人口構成変化や医療の高度化などによる負担の自然増を抑えているに過ぎない。つまり、問題の根幹は医療費を含む社会保障費が増えていることではなく、それに見合う本来必要な負担を国民に求めているという現実にある。

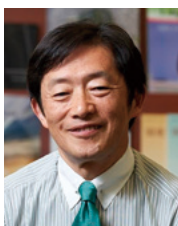
ただし、必要な医療提供体制を確保し維持するために応分の国民負担を求めるにあたっては、その前提条件として、

構成割合を他国の状況とも比較しながら慎重に検討する必要がある。その際には、世代間の負担の公平性と財源としての安全性に配慮しつつ、適切な財源とその構成のあり方を検討すべきである。

医療需要の所得弾力性が1より大きいことは、多くの国で広く知られる。すなわち、医療サービスが国民所得の増加以上に伸長することは、我が国固有の状況ではない。更に、現実に必要な「実体二

療費の最大の増高要因は「技術革新」であり、医療費の増嵩をGDPの伸びの範囲内に抑えることは必要な医療の高度化を妨げる可能性がある。

■TMA近未来医療会議 メンバー



香取照幸 (委員長・座長)

上智大学
総合人間科学部
教授
未来研究所臥龍
代表理事



菅原琢磨 (座長)

法政大学
経済学部
教授



和田耕治 (座長)

国際医療福祉大学
医学部
教授



堀 真奈美

東海大学
健康学部
教授



真野俊樹

医師
中央大学大学院
戦略経営研究科
教授
多摩大学大学院
特任教授



北川雄光

慶應義塾
常任理事
慶應義塾大学
医学部外科学
教授



藍 真澄

東京医科歯科
大学大学院
教授



國土典宏 (副委員長)

国立国際医療
研究センター
理事長



海老原 全

東京都済生会
中央病院
院長



土谷明男

葛西中央病院
院長
東京都病院協会
常任理事



大坪由里子

三軒茶屋病院
院長
東京都病院協会
常任理事



平澤精一

マイシティクリニック
院長
新宿区医師会
会長



莊司輝昭

立川在宅
ケアクリニック
院長
立川市医師会
理事



野村和至

野村医院
理事長
板橋区医師会
理事



林 泉彦 (副委員長)

はやしクリニック
院長
町田市医師会
会長



増田幹生

共和堂医院
院長
北区医師会
会長



長谷川ひとみ

はせがわ内科
院長
武蔵野市医師会
副会長



尾崎治夫

東京都医師会
会長



平川博之

東京都医師会
副会長



黒瀬 巖

東京都医師会
理事

ズ」がある医療や介護について、「現金給付」である年金のマクロスライドと同じ考え方が適用できるかという問いに対しては、国民への説明・受けとめ方の両面から肯定できない。

我が国の診療報酬体系は長年の歴史的背景のもと、医療機関の構造や人員の配置基準、医師等の医療従事者が実施した診療行為や患者の状態像、更に最近では一部診療の成果など、構造・行動・成果（SICRP）の3要素を複雑に組み合わせて構築されている。

これまでの診療報酬改定では、まがりなりにも医療技術の進歩、診療内容の変化、患者の状態像などを精査し、質の確保を含めて必要な医療が担保できるように配慮されてきた。

このような現行の診療報酬と関係の希薄なマクロの経済成長とを連動させて医療費全体（あるいは診療報酬本体）を管理する手法の導入は、質・量確保の両面において本来必要な医療提供を大きく毀損する可能性が高く、容認することにはできない。

医療保険制度・医療提供体制に関する国民理解の促進

医療サービスは、人が生涯にかかわる最も重要な基盤サービスである。しかし、我が国ではその根源的かつ不可欠なサービスの状況について体系的な教育の機会がない。

学齡期の早期から、定期的に医療保険制度や医療提供体制の現状について学ぶ機会を創出し、国民的理解と浸透を促す必要がある。

医療コストに係る国民
理解の促進と周知

我が国では、すべての国民に対して国民皆保険制度のもとで、必要かつ適切な医療を提供しているが、その費用が公費や保険料によって賄われること、年齢や所得水準による定率負担や高額療養費制度（高額医療・高額介護合算療養費制度）等の制度が存在することにより、実際に発生している医療コストが患者本人にとって意識しにくい構造となっている。

このような医療コストに対する意識の希薄化が、時に安易な医療機関受診につながっている可能性は否定できない。

診療報酬点数表には、保険診療の医療機関への報酬という意味で費用が掲載されているものの、多くの国民にとって現実にかかっている診療費用を目にする機会はこれまですごい少なかった。

今後は、医療従事者自らがより明確で分かりやすい医療コスト総額の開示・説明を行う機会を促し、公費を用いて診療を担う医療従事者としての説明責任と患者のコスト意識の向上に貢献すべきである。

適切な医療受診への
規律付けの強化

比較的低廉な費用で良質な医療サービスを公平に提供する我が国の医療機関は、誰もが利用可能な「コモンズ」と

る。「コモンズ」の適切な維持管理には、利用者自身の過度な利己的動機を抑制する適切な規律付けが必要とされる。

「フリーアクセス」は我が国の医療の優れた点ではあるが、今後も患者が必要な医療へのアクセスを確保していくため「かかりつけ医」機能の強化、普及促進（「かかりつ

令和3年度
東京消防庁「消防行政協力章」

東京消防庁では、長年にわたり消防行政の発展や消防業務の推進、消防施設の充実強化に貢献した個人に対し、「消防行政協力章」を贈呈している。

令和3年度は、東京都メディカルコントロール協議会の委員として救急隊員の資質の向上および救急業務の高度化に寄与し、また、相談センター運営協議会の委員としてセンターの適正かつ円滑な運営に貢献したことから、本会の新井悟理事が受章した。

受章式は3月8日（火）に東京都医師会館で行われ、門倉徹東京消防庁救急部長より表彰状が授与された。



け医」の定着など制度化）を図るとともに、適切な医療機関受診を促すための「保険外併用療養費制度」の活用も検討する。

医療費の公平な負担のあり方

個人の自己負担の考え方に
ついては、これまで主として
所得にのみ依拠してきたが、
マイナナンバーカードの普及な
ど、徐々にではあるが正確な
個人資産の状況を把握する
社会インフラが整備されつ
つある。

今後、急激な現役世代の減少が起るなかでは、負担の

更なる公平化が問題となる。現役世代に比べ、相対的にはより多くの金融資産を有する高齢者が多いこと、高齢者世代内での資産格差は若年世代よりも大きいことを考えると、自己負担率の保有金融資産の反映については検討の余地がある。

本会議からの提言（全文）は
東京都医師会ホームページに
掲載する予定である。



東京都医師会 TMA近未来医療会議 検索

令和3年度 東京都医師会功労賞および医学研究賞・グループ医学賞受賞者

本年3月に「令和3年度東京都医師会功労賞表彰式および医学研究賞・グループ医学賞受賞記念講演会」の開催を予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い中止となった。受賞した先生方に祝意を表するとともに、紙上で受賞者を発表する。

功勞賞

【地区医師会会長（10年在任）】

田村 豊 (多摩市医師会)
並木 温 (東邦大学医師会)

【東京都医師会代議員（10年在任）】

本多一義 (練馬区医師会)
並木 温 (東邦大学医師会)

【東京都医師会委員会委員

【10年在任】

- 広報委員会
石井一平 (大森医師会)
- 在宅医療協議会
椿 哲朗 (浅草医師会)
英 裕雄 (新宿区医師会)
- 救急委員会救急相談センター
運用部会
金 史英 (日本医科大学付属病院)

医学研究賞・グループ医学賞

【医学研究賞(1名)】

○齋藤優樹 (慶應医師会)
慶應義塾大学医学部 内科学(消化器) 大学院生
「がん遺伝子における複数変異の全体像と生物学的意義」

【医学研究賞奨励賞(7名)】

○戸田郷太郎 (東京大学医師会)
 東京大学医学部附属病院 糖尿病・代謝内科 助教
 「免疫の食事に対する正常応答を維持することによる新規肥満治療の検討」

○楠本 大 (慶應医師会)
 慶應義塾大学医学部 予防医療センター 助教
 「深層学習による老化スコアリングシステムを用いた抗血管老
 化薬探索」

○佐々木 裕伸 (慶應医師会)
 慶應義塾大学医学部 予防医療センター 特任助教
 「日本人の成人における出生体重・小児期の肥満と β 細胞量の
 関係」

○戸ヶ崎 和博 (慶應医師会)
慶應義塾大学医学部 坂口光洋記念講座(オルガノイド医学) 特任助教
「Wntシグナルにより制御される、びまん性胃がんの腫瘍内不均一性」

○互 健二 (慈恵医師会)
量子医科学研究所 脳機能イメージング研究部 研究員／
東京慈恵会医科大学 精神医学講座 助教
「アルツハイマー・非アルツハイマー型タウオパチーに伴うタウ病変の生体内における高感度イメージング」

○藤本俊成 (慈恵医師会)
東京慈恵会医科大学 腎臓・高血圧内科 助教
「ネフロン前駆細胞除去システムによるヒトネフロン再生」

○竹中健人 (東京医科歯科大学医師会)
東京医科歯科大学 消化器内科 助教
「人工知能(AI)による潰瘍性大腸炎の内視鏡画像評価の開発」

【グループ医学賞（1団体）】

○一般社団法人 東京産婦人科医会学校保健部（渋谷区医師会）
長岡美樹 以下28名
「東京都公立高等学校・中学校における性教育の取り組み」

169
みどりの
広場コロナ禍での耳鼻咽喉
科診療、嗅覚・味覚
障害診療について日本医科大学付属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科
部長 大久保公裕／助教 吉野綾穂

2019年末に始まった新書、味覚障害は半年ほどで多

型コロナウイルス感染症の流

行に伴い、嗅覚障害や味覚障

害が新型コロナウイルスへの

感染を疑う症状として注目を

集めた。新型コロナウイルス

感染症の流行が始まって2年

以上が経ち、これまでの症例

の蓄積によると、新型コロナ

ウイルス感染症による嗅覚障

害が新型コロナウイルスへの

感染を疑う症状として注目を

集めた。新型コロナウイルス

感染症の流行が始まって2年

以上が経ち、これまでの症例

の蓄積によると、新型コロナ

ウイルス感染症による嗅覚障

害が新型コロナウイルスへの

感染を疑う症状として注目を

集めた。新型コロナウイルス

感染症の流行が始まって2年



西京みそらーめん(半)と餃子、ご飯のセット

八王子・みそ処麵屋いっぱし

10種類のみそラーメンを
食べ比べ

趣味の散歩

八王子市には、「みそ処

入りの西京みそが信州みそ

を注文してしまします。

最近では半ラーメンにし

て、餃子とご飯のセットを

注文することが多いです。

他のお客さんの注文は、信

州みそが多いようです。写

真は「西京みそらーめん」

の半ラーメンと餃子、ご飯

のセットです。ご飯は多い

ので、かなり減らしてもら

いました。大きめの海苔は

器に立てかけ、レンジで押

さえるスタイルです。その

他、ホロホロに軟らかく煮

たチャーシューや刻みネ

ギ、メンマ、トッピングの

煮卵がのっています。ス

ープには牛脂が入っています

が、しつこくなく程よい味

です。

ぜひ、全種類のみそラ

ーメンを制覇しに八王子市へ

来てください。

(八王子市医師会・太田ルシヤ)

知っていますか?

寝そべり族

中国で問題視されている言葉。「一人っ子政策」下に生まれ、家族全員の期待を背負って過酷な受験戦争などをやり遂げたあと脱力してしまい、寝そべって楽に生きるライフスタイルをおくる人たちのこと。日本でも「五月病」や「バーンアウト(燃え尽き症候群)」などが問題となるが、過当競争や覇権主義の時代は、「モーレツからビューティフル」(??)へと変遷していくのかもしれない。

都医ニュース表紙の写真を募集

本ニュースは毎月、季節に合った東京の写真を表紙に掲載しております。その表紙写真に、先生が撮影した写真を応募してみませんか? 都内の写真で、季節感のあるものをお願いします。本会広報委員会で掲載を決定いたします。なお、掲載された写真は、本会のホームページにも掲載させていただきます。

デジタルカメラやスマートフォンで撮影をした
600万画素以上(横3000×縦2000ピクセル以上)の
デジタルデータ
プリントサイズは、横235mm×縦137.5mm以上

応募・問い合わせ先

〒101-8328 東京都千代田区神田駿河台 2-5
東京都医師会 広報学術課 ☎03-3294-8821(代)
kouhou@tokyo.med.or.jp

掲示板

「生涯現役」をかなえる
在宅透析

鈴木孝子 著



1960年代に始まった透析医療。今こそ世界に名だたる日本の透析技術だが、かつては「透析＝終末期医療」と考えられていた。医学の進歩により人の平均寿命は80歳を超え、透析導入症例でも同様に生命予後は延びている。

がんを患った際には、仕事と治療の両立を支援するために、がん診療連携拠点病院等で相談できる環境整備がなされるなど、公的なシステムが構築されている。一方、透析患者の多くは医療機関に通って長時間治療を受けるため、時間的にも精神的にも負担が大きく、就労の機会を奪われてしまうこともある。このことは、本人にとっても社会にとっても損失ではないだろうか。

なぜ透析患者は就労の機会から遠のいてしまうのか。本書は、制限の多い施設透析ではなく、さまざまな方法で仕事を続けながらの治療を実現する透析医療の詳細が理解できる一冊である。

発行▼幻冬舎メディアコンサルティング
価格▼1650円(税込)都医ニュース2号(昭和36年2月発行)を
お持ちの方はご一報ください

東京都医師会 広報学術課

☎03-3294-8821

都医からのお知らせ INFORMATION

第454回 国際治療談話会 例会 「医学生の共用試験 (CBTとOSCE) の公的化」

問合先

(公財)日本国際医学協会 事務局
東京都世田谷区上馬 1-15-3 MK三軒茶屋ビル3F
TEL: 03-5486-0601 FAX: 03-5486-0599
E-mail: imsj@imsj.or.jp URL: <https://www.imsj.or.jp/>

日時 ▶ 5月19日(木) 18時30分～20時30分

形式 ▶ WEB講演

開会挨拶 ▶ 石橋健一((公財)日本国際医学協会 理事長)

座長 ▶ 谷口郁夫((公財)日本国際医学協会 理事)

【第1部】講演Ⅰ「医師養成一貫性の視点からみる臨床実習前OSCEの公的化」清水真子(社会福祉法人聖隷福祉事業団 顧問)

講演Ⅱ「医学生に課せられる共用試験」齋藤宣彦(公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構 副理事長)

【第2部】感想 ▶ 「日本の厚生労働省及び社会保障の現状と課題」二川一男(東レ株式会社 取締役、株式会社日本ヘルスケア総合研究所 ヘルスケア政策・産業調査研究室 上席研究員)

取得単位 ▶ 日医生涯教育制度1単位(CC: 1、0)

申込方法 ▶ 右記QRコードまたは当協会ホームページimsj.or.jpをご覧ください。

視聴 ▶ 無料



日臨内「かかりつけ医のためのWEB講座」 ～スペシャリストがジェネラリストになるために～

問合先

日本臨床内科医会
E-mail: jpa@event-mhlab.jp

日時 ▶ 5月25日(水) 19時30分～21時45分

形式 ▶ WEB講演

セミナー ▶ 「肥満症治療の基盤：食事・運動・行動療法の重要性」益崎裕章(琉球大学大学院 教授)

①「糖尿病腎症の現状と課題、腎症進展予防の治療も含めて」今村憲一(日本臨床内科医会 学術部内分泌・代謝班) ②「血液患者さんにも在宅療養の選択肢を、在宅輸血を含めて」伊藤達也(日本臨床内科医会 学術部血液班) ③「MTXのみで治療困難な関節リウマチ症例に対する生物製剤の応用と事前の感染症チェック」土田哲雄(日本臨床内科医会 学術部アレルギー・リウマチ班)

取得単位 ▶ 日医生涯教育制度2単位(CC: 82、76、80、61)

申込方法 ▶ 右記QRコードまたは当会ホームページをご覧ください。

参加費 ▶ 無料



医師国保からのお知らせ

令和4年4月からの保険料について ～今年度、保険料の改定はありません～

	医療保険料(月額)		介護納付金 保険料 (月額)	後期高齢者組合員 保険料 (月額)
	医療給付費 保険料	後期高齢者支援金等 保険料		
第1種	27,500円	5,000円	5,500円	—
第2種	13,500円	5,000円	5,500円	—
家族	7,500円	5,000円	5,500円	—
第3種	—	—	—	1,000円
第4種	—	—	—	1,000円

※介護保険料は、40歳以上65歳未満の方が該当します。

※後期高齢者組合員保険料は、第3種・第4種組合員(75歳以上)の方が該当します。

ぜひ、ご家族や常勤の従業員の方と一緒に、
医師国保組合に加入してください。

www.tokyo-ishikokuho.or.jp

東京都医師国民健康保険組合 ☎ 03-3270-6433 (業務課)

無声拝聴

ユーザー

インターネットを開くと、こは情報の宝庫であると同時に世相の鏡でもあって、大変興味深い。なかには、最高学府卒のユーザーや、医師であり予備校経営者でもある人など、いて、人材も豊富である。思い思いに自分の意見を発信しており、最近の若い世代のチャレンジ精神は目を見張るばかりである。医師国家試験に合格した後、あえて研修医にならず予備校界に入り、数学や英語を分かりやすく教えている人材もいて、「自分の受験時代、こういう先生に習えたら成績も上がったことだろうなあ」と思うのである。

ひと昔前であれば、学生時代は家庭教師のアルバイトとしても、そのまま何も考えずに医師として研修医の道を歩むのが普通であった。今は時代が変わり、医師以外の道へ進む人材も増えてきている印象がある。なかには、医師免許と弁護士資格の両方を持ち、受験の話題を中心に活躍しているユーザーもいる。現在でも大学医学部は高い偏差値を保っているが、それにおおることなく、優秀な人材を医療の道に引き留めることも、真剣に考えなければならぬ時代になったようである。

(山本純)

第31回 日本医学会総会 2023 東京 事前登録受付開始

令和5年4月21日(金)～23日(日)の3日間、第31回日本医学会総会が「ビッグデータが拓く未来の医学と医療～豊かな人生100年時代を求めて～」をテーマに、東京で開催されます。

本年2月1日(火)より、事前登録の受付が開始されました。ぜひご登録ください。



【問合先】

事務局
〒113-8655
東京都文京区本郷7-3-1
東京大学医学部附属病院
中央診療棟2(8F)
[TEL] 03-5800-8971
[FAX] 03-5800-6412
[E-mail]
office@isoukai2023.jp



▲事前登録は
こちらから



FM93 AM1242 月曜から金曜
ニッポン放送 あさ6時15分頃から



『モーニングライフアップ今日の早起きドクター』

ニッポン放送(AM1242kHz/FM93.0MHz) 朝の番組「飯田浩司のOK! Cozy up!」内で6時15分頃から5分程度、東京都医師会の役員等が出演して生活に役立つ健康情報をお届けしています。過去の放送はすべて番組ホームページまたはポッドキャストから聴くことができます。

■番組ホームページ

<http://www.1242.com/cozy/>

■ポッドキャスト

<https://omny.fm/shows/cozy-up/playlists/doctor>

飯田浩司の
OK! Cozy up!



日本医師会生涯教育講座

新型コロナウイルス感染防止のため、
事前申込制とさせていただきます。

日時 令和4年5月26日(木) 午後2時～5時

【申込方法】研修申込システムにて申込

オンライン(Webex)のみで開催します。

【定 員】100名

【申込締切】令和4年5月25日(水)

日本医師会生涯教育制度 合計 2 単位

カリキュラムコード 15、81

日本内科学会認定総合内科専門医更新単位 2 単位

【問い合わせ先】

東京都医師会 広報学術課

TEL：03-3294-8821 (代表)

※詳細は都医ホームページを
ご確認ください



がんゲノム医療

座長 東京都医師会理事

落 合 和 彦

慶應義塾大学医学部

腫瘍センターゲノム医療ユニット 教授

西原 広 史 先生

東京大学大学院医学系研究科

医学生体工学講座統合ゲノム学分野 教授

織田 克利 先生

共催 東京都医師会
武田薬品工業株式会社

ゲノム検査が切り拓く がん個別化医療の最前線

西原広史先生

ゲノム検査にて得られた遺伝子
プロファイルの結果に基づいて個
別化治療を行うことを「がんゲノ
ム医療」と呼ぶ。2019年、遺
伝子パネル検査の保険診療での運
用が開始され、2021年8月に
は血液検体のみを用いて実施する
リキッドバイオプシーも承認さ
れた。

しかし、現状では限られたがん
患者にのみ適応が許されており、
またコンパニオン検査と遺伝子パ

ネル検査の使い分けをどうする
か、保険診療での検査の適格基準
や標的ドライバー遺伝子が複数存
在する場合の薬剤選択基準、がん
ゲノム検査後の適応外使用を含む
治療選択、遺伝性腫瘍症候群が同
定された場合の現場対応など、さ
まざまな問題点が山積している。
本講演では、ゲノム検査のシス
テムとがんゲノム医療の現状、将
来の展望について解説する。

相同組換修復欠損に関わる遺伝子関連検査 ゲノム医療の意義とPARP阻害薬の位置づけ

織田克利先生

BRCA1、BRCA2は遺
伝性乳癌卵巣癌(HBOC:
Hereditary Breast and Ovarian
Cancer)の原因遺伝子として知ら
れており、PARP阻害薬の有効
性が高く、その遺伝学的検査が乳
癌や卵巣癌を中心に普及してき
た。現在、PARP阻害薬の適応
は、BRCA1/2の生殖細胞系
列変異のみでなく、体細胞変異(が
ん細胞のみ変異が生じる)にも

広がってきている。

更に、BRCA1/2がなくて
も、「相同組換修復欠損」であれ
ばPARP阻害薬の効果が期待さ
れるため、「相同組換修復欠損」
を調べるための検査(TruChoice
診断システム)も卵巣癌で保険適
用となっている。

本講演では、HBOCや相同組
換修復欠損に関わる検査と治療応
用について概説する。

医師と医師会を結ぶ 情報紙

都医NEWS

2022

Vol.
674

地区医師会長からの一言

目黒区と目黒区医師会を紹介します

目黒区医師会長 渡邊英章



目黒区は、面積14.67km²で人口は27.8万人です。近隣区と比べるとその規模は渋谷区(15.11km²、22.9万人)に近く、世田谷区(58.05km²、91.6万人)の約4分の1です。区内にはJRの駅がなく(目黒駅は品川区です)、最大の交通手段である東急東横線が斜めに走り、中目黒駅や自由が丘駅周辺は大変な賑わいとなっています。また、目黒川の桜が全国的に有名になり、花見の時期には大変混雑しますが、古くからの住民にとってはいささか複雑な思いです。

当医師会の会員数はB会員を含めて約450人で、区内の5つの基幹病院の多くの先生方も会員となっています。医療機関数は約250施設で、大変な勢いで増加しています。地域医療の特徴は、区内に5大病院と呼ばれる東京医療センター、三宿病院、東邦大学医療センター大橋病院、東京共済病院、厚生中央病院が存在し、他にも昭和大学附属東病院、日本赤十字社医療センター、自衛隊中央病院、NTT東日本関東病院などが比較的近くにあって高度な

医療資源に恵まれており、紹介先は豊富です。

当区は、早くから胃がんのABC検診、平成29年度からは胃内視鏡検診も開始し、成果を上げてきました。これらの検診は都内のなかでも早くから始められましたが、それは日頃から保健所をはじめとした区の行政側と良好な信頼関係が築けているからです。今回の新型コロナウイルス感染症への対応についても行政との連携を密にし、ワクチン接種やPCRセンターの設立、発熱外来などに素早く対応してきたと自負しています。

今後の当医師会の課題は、事務局の体制強化です。事務局は会員数や業務内容に比べてミニマムであり、現在のような予期しない感染症の拡大への対応は本当に大変です。今後はマンパワーの増強と一層のIT化を進め、感染症対策だけでなく、必ず来ると言われている大地震などの自然災害への対応も図っていく必要があります。非力な自分にどこまでできるかわかりませんが、精一杯やっています。